

第 23 回 100 年史誌部会 議事録

日時: 2008 年 3 月 5 日(水) 16 時 00 分～17 時 30 分

場所: 管理棟 2 階 第一応接室

出席者: 横山部会長、栗野、高畑、松田、小山、奥山、小池、片山各委員、小室編集局員、斎藤編集補助員

欠席者: 大町、神戸、山崎、金子、赤平各委員

【配布資料】

【資料 23-1】 山形大学工学部 100 周年記念誌

【資料 23-2】 山形大学工学部 100 年誌ジャーナル記念誌制作スケジュール

【資料 23-3】 山大のコンピュータの変遷 (小山委員)

【資料 23-4】 II-2-② 工学部通史・概要案

I) 報告事項

1. 来月の「今月の話題」は奥山先生が担当と、小室編集局員から依頼があった。
2. 事務局新メールアドレスが 100hj@yz.yamagata-u.ac.jp に変更になった旨斎藤編集補助員から説明があった。

II) 協議事項

1. 100 周年記念誌

- (1) 資料 23-1 に基づき「ぎょうせい」の提案内容に関して松田 J 班長・小池委員から説明があった。また、資料 23-2 に基づきスケジュールの説明があった。以下のような質問やコメント、質疑応答があった。
 - ・ 資料 23-2 の 2,3 ページに 100 周年記念誌の見本を綴じ込んだ。コラムの設定やテーマの設定、アイデア出しをお願いしたい。
 - ・ 「百人の声」の執筆者の選定は、各科、各系からバランス良くしたい。400 字では足りないのでは無いかとの意見が出されたが、実際には 400 字という制限を設けてもオーバーする人がほとんどであるとの由。それに対して、100 人に拘らず 50 人で 800 字くらいではどうか、という意見も出された。「百人の声」に関しては、最後の最後までかかってもかまわないとの見解が出され、引き続き検討することとなった。
 - ・ 第一章と第二章、部局史をまとめたようなものになるだろう。
 - ・ 栗野委員から『パトリア』の意味に関する質問が出され、「郷土、あるいは郷土愛という意味。地方の独立といった意味合いも含めている。ネーション(国家)の対義語であり、地方の時代における地方大学のあり方の反映する意味が込められている、との説明があった。
 - ・ アルカディア・イザベラ・バード、雪、祭り、温泉、イノベーション、上杉鷹山、直江兼続、象限 C。
 - ・ 4 つの象限とはなにか? という質問が寄せられ、個人(内面)と社会(外面)を横軸に、直接(能動的)と間接(受動的)を縦軸にした二次元座標系の各象限である、と回答された。
 - ・ 小野栄さんとか、執筆に相応しいひとが入ってくればいい、との要望が出された。
 - ・ とりあえず、この内容で持ちかえって、ジャーナル班でもみあげて、ポリシー建て直して、次回提案いただきたい、と横山部会長からコメントがあった。
 - ・ 第 5 章に大学院大学の項を設けてはどうか、将来展望/次の 100 年の夢、といった企画があれば良い、との要望が出された。
- (2) 今後の J 班の活動に関して資料 23-1 の 2 ページ目に基づき松田 J 班長から説明があった。
 - ・ 第一次成果品が 3 月末にでき上がる。次回の部会で提示したい、とのコメントが松田班長から出された。
 - ・ 細目設定の必要性が指摘された。

2. 百年史

- (1) Web サイトの連載寄稿記事「今月の話題」について小山委員から紹介があった。
- (2) 百年史概要(戦前編)について小室編集局員から説明と紹介があった。
 - ・ 第 1 章は高等工業学校が創立するまでの基盤的な内容とし、高等工業学校創立以後の戦前の内容を 2 章と 3 章に分けた
 - ・ 「井上文部行政下における云々」を第 1 章に組み込んだ。第 1 章では、実業学校令など、実業教育と専門教育の狭間で実業高等教育機関として確立していく様子が伺える。
 - ・ 第 2 章では創立前史から始まり、有為会の寄与についても触れていく。また後半では土地を増やし、学科が増えていく様子も記述する。
 - ・ 第 3 章では戦争に突入して行く様子である。また大正の後期から教育機関というよりも研究へ重点が移って移って行く様子、多岐にわたり研究員を獲得して行く様子が伺える。
 - ・ 最後に横山部会長から、百年史が私達の大学の将来はこうあるべきだという教材として、また自己点検となるようなものにしたい、とのコメントが寄せられた。
- (3) 資料調査 日誌について小室編集局員から報告がなされた。
 - ・ 50 年史と 80 年史は 1 次資料が少ないので、これらの充実も図りたい。
 - ・ 年報(年次報告書、昭和 24 年くらいまでである)をベースに、財務データを日誌で肉付けしながら書き進めたい。
 - ・ 日誌に関しては昭和 21 年までの抄録ができた。CD に焼いてあるので、いつでも使える。また、3 月中に Web サイトからも閲覧可能にするとした。

3. その他

- (1) 退職される先生方への資料の提供依頼について
 - ・ 小室編集局員から退職される先生方が所有される資料で編纂室に提供して頂けるものがあつたら、提供いただきたいと希望する発言があり、メールなどで呼び掛けることとなった。
- (2) 執筆依頼文について
 - ・ 小山委員から、執筆依頼文を使用する場合、状況にあわせて内容を修正しても良いかどうか、許可を求める発言がなされ、問題無しとされた。

III) 次回の会議について

- (1) 3 月の部会について
 - ・ 次回は年度のまとめということで 2008 年 3 月 31 日(月) 15:00 ~16:00 事務棟 2 階 第一応接室 にて行ないたい旨、提案があり了承された。ジャーナル班に関して 20 年度への橋渡しとなるよう 19 年度をまとめ、ヒストリー班は、基礎年表の作成や資料の調査などに関する進捗状況報告をお願いしたい。
- (2) 来年度(4 月以後)の定例会議について
 - ・ 基本的には 20 年度も月一度の開催ペースで行ないたい。曜日と時間は水曜日 16 時開始とするが、別途希望があれば申し出ていただきたい。